

新発田城下町の自然環境に関するGISの構築

油 浅 耕 三*

A Build of GIS Method in the Natural Environment of the Shibata Castle Town

KOUZOU YUASA*

Abstract : This study is, from the side of GIS, deals with the natural environment of the Shibata castle town. The method of study is the considerations, base on the maps of castle town, the investigations of the present condition and the geographical descriptions. In this paper, the author attempted, in the lay of the land, the geological features, the water and the vegetations of the Shibata castle town, a trial to the application from the GIS method.

Keywords : 新発田(Shibata), 城下町(castle town), 自然環境(natural environment)
城下町絵図(maps of castle town), 地理情報システム(GIS)

1. はじめに

地域の生活環境に対する認識を, いろいろな視点で高めることは, 地域生活のあり方を考える上で重要なことといえる。

本研究は, 古絵図をもとに地域の現状を調査し, 関係する地誌の内容を踏まえ地域の自然環境の歴史的側面を考察しその活用を「GIS」により広げようとするものであって, ここでは越後国の新発田城下町をとりあげた。

2. 新発田の古絵図

新発田の藩政時代の古絵図として城絵図3枚, 城下町絵図18枚を収集することができた。新発田では, 城絵図・城下町絵図が各年代を通して伝えられているといえる。

この内, 「図1」は新発田城下町の建設がほぼ終了した時期のものであり, 「図2」は, 図1と同時期のもので特に石垣・土居の高さや長さ, 堀の広さ深さを最も詳細に書き記している。

また, 明治初年の絵図(『明治初年の新発田藩家中屋敷割図—昭和10年2月新発田郷土研究社刊—』)には, 宝光寺・真称寺・宝積寺には庭園に池が見られる。本研究では明治期の絵図も取り入れる形で考察することとした。

*油浅耕三 : 〒945 - 1103 柏崎市藤橋 1719
新潟工科大学工学部建築学科
TEL&FAX : 0257-22-8168
E-mail : yuasa@abe.niit.ac.jp



図1 『越後国新発田之城絵図』（国立公文書館蔵）



図2 『御家中絵図』（新発田市立書館蔵）

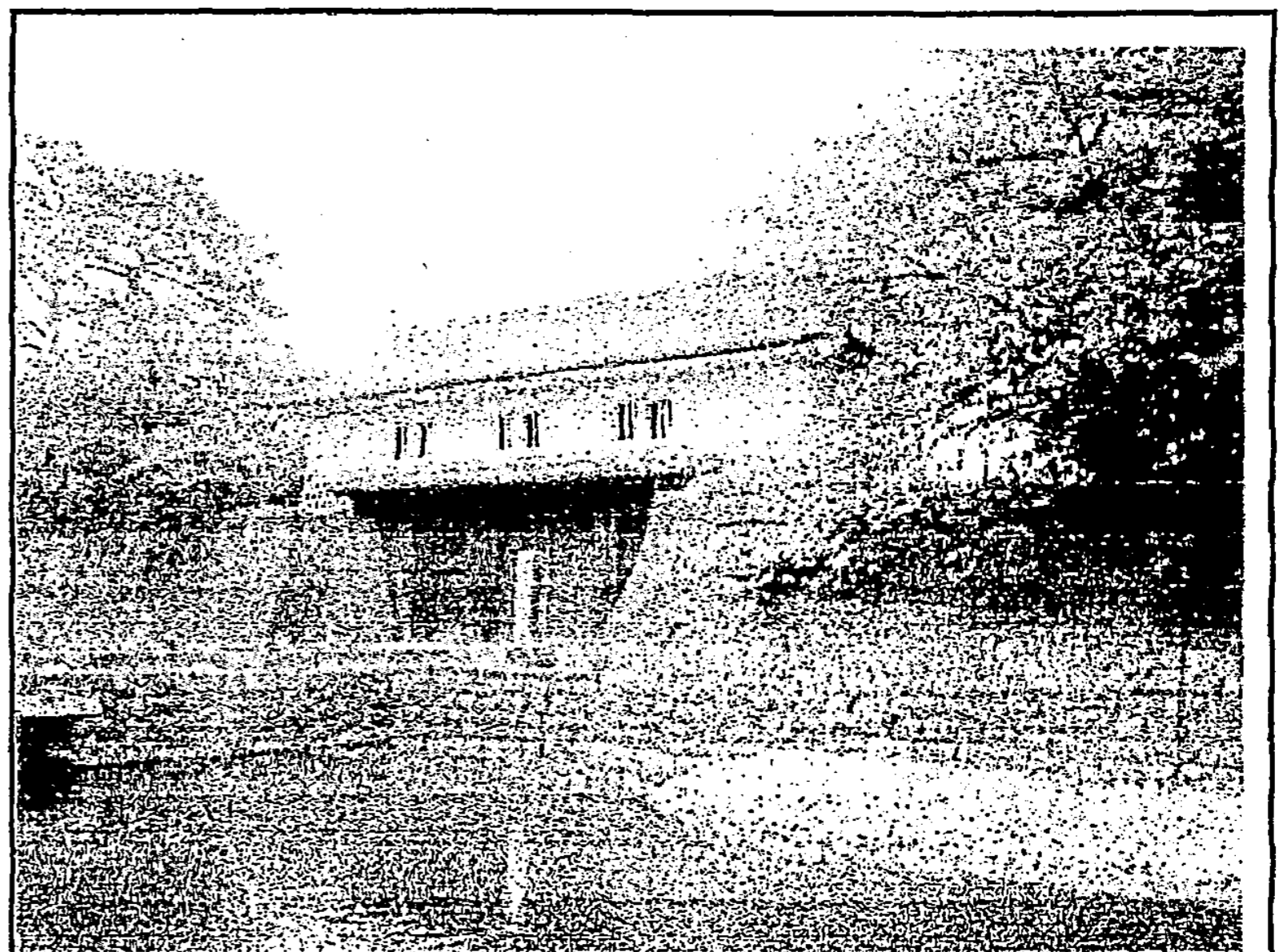
3. 新発田城下町の自然環境

古絵図の表現内容・現状調査・地誌を総合し、新発田の自然環境について以下のような項目として「図3」に整理し、地形・地質・水・植生の解

説の状況をWeb上での検索を試みることにした。

●新発田城下町の自然環境	
△地形	△石垣 △土居
▲地質	▲土取場（二丸） ▲田 ▲深田（ふか田） ▲沼（ぬま）
★水	★本丸堀 ★二丸堀 ★三丸堀 ★庭園池（二丸） ★庭園池（清水園） ★庭園池（宝光寺） ★庭園池（宝積院） ★井戸（本丸） ★井戸（町屋敷） ★新発田川 ★江筋
★植生	★マツ（二丸） ★マツ（諏訪神社） ★エノキ（二丸） ★ウルシ（漆畑） ★イチョウ（諏訪神社） ★タブノキ（清水園） ★スギ（清水園）

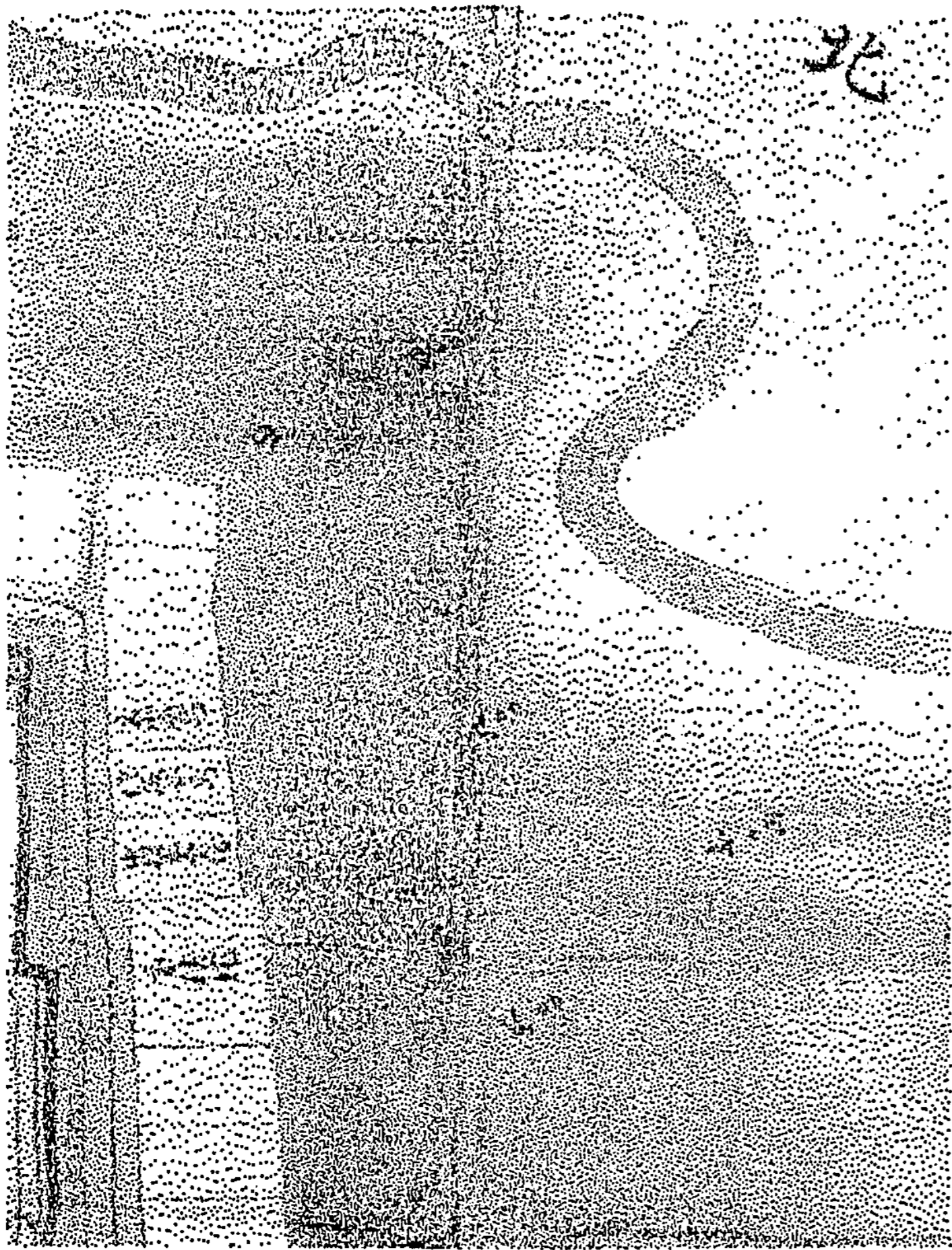
図3 新発田の自然環境項目



△石垣（本丸）

「図1・2」に「本丸櫓蔵石垣高さ五間半」とある。また「堀石垣高さ五間」ともあり本丸の周囲は石垣が築かれていた。この石垣の上には塀を巡らし長さ「二百五十二間」と記す。

図4 △石垣（本丸）



▲田・深田（ふか田）・沼（ぬま）

新発田城下町の周辺は、東西南北方向とも、この「図2」のように「田」・「ふか田」・「ぬま」と書き込みがあるように、低湿な地質であって、城の部分のみこの平地よりといえる。

図5 ▲田・深田（ふか田）・沼（ぬま）



★新発田川（上流）

城下町の東南より、町中を経て西に走る新発田川は、川幅がおよそ3・5m程度である。この上流と下流の標高差は、地形図により約7mといえる。中世に町を開発した当初より人工的に、現状のように迂回する形をとったと伝える。

図6 新発田川



☆イチョウ（諏訪神社）

約230年前の宝暦5年（1755）ころと伝える。昭和58年新発田市の保存樹として第21号に指定されている。新発田の現状を調査すると藩政時代と考えられる高木が多く見られる。このイチョウは、男銀杏と説明板にある。

図7 イチョウ（諏訪神社）

このほかの自然環境の内容は、以下の「図8」に示すこととする。

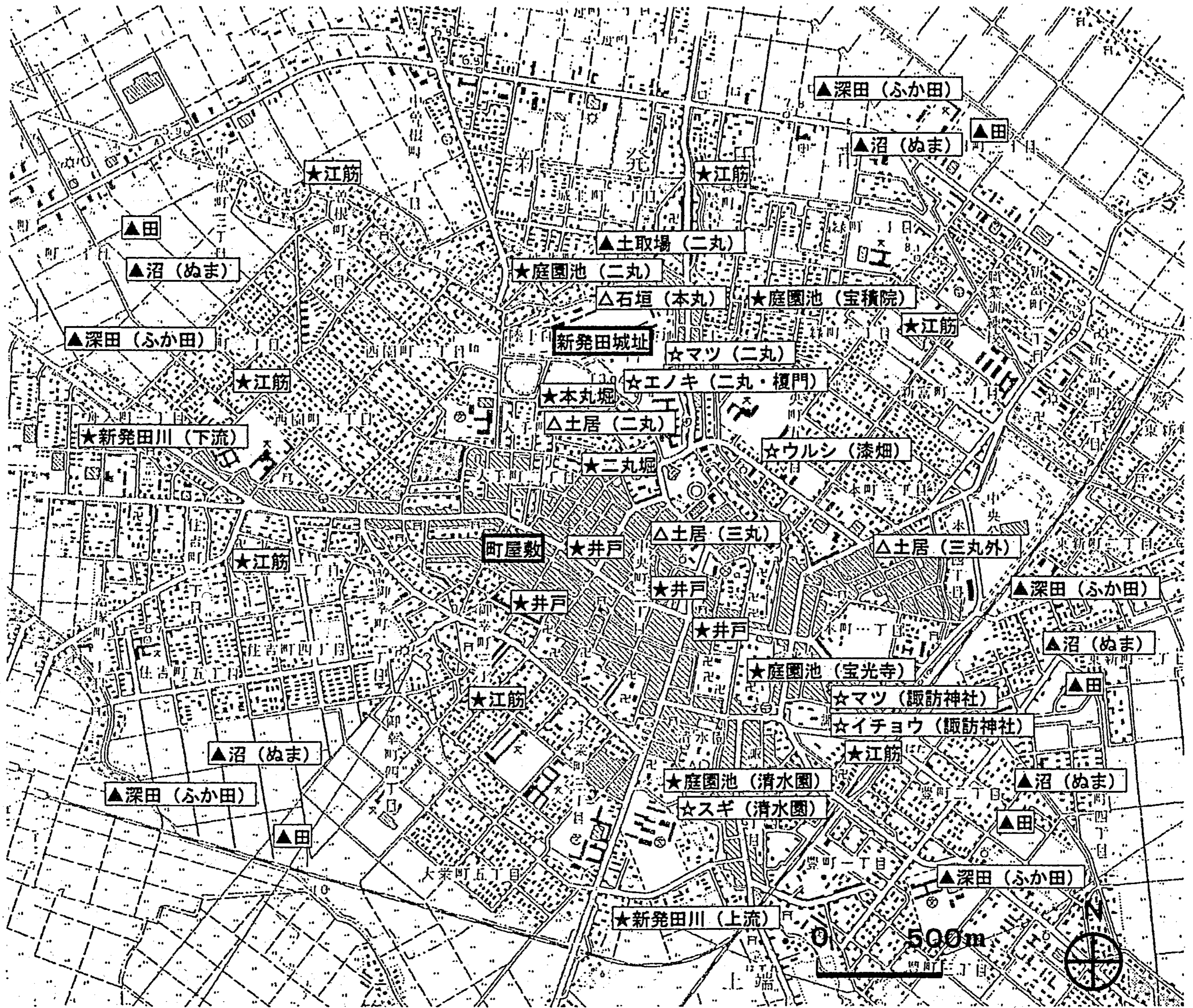


図8 新発田城下町の自然環境位置図

4. あとがき

「図4～図7」のような解説や画像や写真をネットに公開し、また、今後、新発田の自然環境の内容項目について追加をし、修正を加える中で、地域住民共通の認識を高めることが大切と考えられる。

3) 原田伴彦・西川幸治編 (1973)『日本の市街古図・東日本編』, 鹿島研究所出版会刊。

参考文献

- 1) 新発田市史編纂委員会編 (1980)『新発田市史上巻』, 新発田市刊。
- 2) 新発田市教育委員会編 (1998)『城下町新発田四百年のあゆみ』, 新発田市刊。